時事新報は全國中紙面の覇も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告

（定價金二錢）　明治二十六年二月廿八日　（本號十面）　（郵便物認可）

時事新報

第三千五百九十號
明治廿六年二月廿八日
舊暦癸巳正月十二日　（丙申）　火曜日

月入出午前六時三十四分
月入出午後二時五十六分
潮午前三時四十五分
潮午後三時五十四分
（西暦一千八百九十三年）

時事新報定價
時事新報は毎號八百乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料共に左の如し
一枚二錢○一箇月分金六錢○三箇月分金一圓五十錢○六箇月分金三圓○一箇年分金六圓○月賦休刊
○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ要ス

時事新報廣告料（廣告）
一行五號活字廿四字詰　一日限　一日以上六日迄七日以上
一行　二　仮十三錢十一銭十錢五厘

本社（寄稿に付）
寄書廣下を始め各府縣に通信社なるものあり是より他通信社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を飾るなり各社同一の記事を掲ぐるゆえ寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社信社にさへ報道すれば本社にも其報道は通ずる事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報

民論亦愛す可し

藩閥の政事が常に議會に對して政府に反對する其目的は唯當局者を苦ひるの手段に過ぎず明日にも其手に政權を奪るときは論調忽ち一變して温和着實の方針に向ふ而し民論本來眼光に非ず深く憂るに足らずとの次第は前日の紙上にも之を記したり並に在野の政黨が過激無責任の說を主張して時の政府を攻擊し唯その過誤失策を見出すの一方に汲々たるは世界中何れの國に於ても珍しからぬ事例にして政府の當局者に取りては實に迷惑千萬なる次第なれども更に眼界を廣くして國家全體の爲めに利害如何を考ふるときは其攻擊論も亦實際に大効なるに非ず凡そ政府なるものは全體の組織廣大にして事務繁雜なるが爲めに都内の監督甚だ容易ならず勝もすれば種々雜々の弊習を生じ就中冗員冗費の增加は恰も固有の病癖にして之が爲めに空しく國財を失ふのみならず却て政務の進捗を致して遂に復た救ふ可らざるに至るみと少なからず之を名づけて政府の腐敗と云へり是實するに當局の人々が政府維持の利害と自家一身の利害とを區別せず人民の主家に於けるが如く常に公共人民性を以て政務を執ひながら序でに其能の最高をも弄ばんとするが故に新る不始末に至るみとなれば決も去りとて擁防の爲めに法律を設けて之を束縛せんとするも結局不調合なるは其法律を實行して當事の任を能す可き官吏も亦共に是れ腐敗中の人なれば更に之を取締する者なかる可らず而してみの第二の當事者と稱し亦同じく他の當事を取締するものにして當事又當事者に對して監督を設めんとするは同一實際に行はれ難き所なりと知る可し然らば誰の固有の病症たる腐敗と物ふたは如何にして可ならん歟と云ふに唯在野政客の反對論あるのみ或は之を野して立憲政治特色の功德と云ふも不可なきが如し抑も在野政黨の目的は唯取て代るの一偏にみそ在れば何事に限らず些少にても時の政府の瑕瑾を見出して之を非難するの口實を造り他を妨げて自から利せんとする其一方に於て政府の人は又反對黨の爲めに自家の落度を見出され爲めに幾分か名聲信用を害せられて地位を危くするの掛念なきに非されば決して油斷す可らず其良心の如何は扨置き現に角に他の攻擊を避けんとして自から明にし雙方互に自家一身の私利を目的として相爭ふ其間に自から政府部内の改良も行はれて結局國民一般の利益たる其趣は恰も商店の番頭二人が互に相爭ひ相嫉んで他の失行を見出さんみとを勉るが爲めに金庫の錢は却て安全なるものに異ならず或は立憲國の政府をして清淨潔白ならしむるものは在野黨の嫉妬心なりと云ふも過言に非ざる可し現に我國にても議會開設以來攻擊の甚だしきは爲めに政府は年々歲々次第に會計の法を慎み復た前年の濫費濫用を見ず官途全體に其面目を改めたるが如き明白なる事實にして政客嫉妬の功德も亦大なりと云ふ可し

又一歩を進め當局者の政略の爲めに謀りても外に政敵あるは内の結合を固くするのみならず我國の如き情實政府に於ては民論の攻擊を利用して都内の整理を斷行するの餘柄を得べし例へば現政府の内に蟠まる年來の弊事は當局者に於ても之を知りながら之を除くの手段に窮したるみとなれども立憲の體面の爲めに民論に從はざる可らずと云へば其立言に多少の重きを置かざるを得ず即ち過般伊藤首相が議會に對して來期の開會までには必ず整理の事を行ふ可しと約束したるも其心算は必ず民論を利用して平生の素志を達せんとするの政略なる可し其政略の果して今日に適す可きや否やは別問題として兎に角に在野政黨の議論は國事を破壞するものに非ず却て間接に之を理するの媒介たるを知る可し民論惜む可らず愛す可きなり

雜報

○射利の親玉（二十二日の續き）　前既に陳べたるが如くゲーグールドは僅に十四五歲にして主人を出し振き奇利を獲んとせし程の一種の人物なれば渾身唯是れ餌を得んとするのみにして官と人情に頓着する邪のみとはなしグールドは曾て牧者の投機を思立ち左る農家に行きて一疋の牝牛を買はんとせしが農夫の妻は痛く牛を愛し日本ならば假令ば女房くして牛賣り損ふとの喩りを被るとも牛は放しはせじと決心せしもの

にてもあらんか假令ひ善生とは云へ年頃日頃手塩付けて我愛を事ひ來る者を今更、人手に賣渡さんは心に忍びずと延に承引く氣色さへ見えざりしとグールドは如何云ひくるめけん終に農夫をして財を貪るの心を起さしめ首尾よく牝牛は捕上げたり扨もグールドは之を我家に牽歸りて此度我爲めには蓋張の辨を個したる實物ィデ乳しぼりて與れん造莫れ苟めにも女が放さじものと思ひし物を引放し來りたるは要なきみとをしてけりと流石、鬼を欺くグールドも聊か心に安からぬ折柄牝牛は後足もてゴエーが背中をシタヽカに蹴り乳しぼりの桶は飛で宙に上たり商賣に抜目なきは亞米利加人の特質なれども牛が中にてゴエーグールドは蓋し其巨魁なる可し亞米利加に鐵道の事業起てよりグールドの如き人は少からず例ばヂーン リチモンド、ダニエルズルー及びコルネリアス ヴアンダビルトの如し然れども彼等は終にグールドに及ばざるなり又グールドの事を爲すや其所業は固より高等なる總義もて論ず可きに非ず彼れが

エリー鐵道を押領

せんとて壅為せし手段の如きは若し此手段をして他人の計策たらしめんには其人は既に獄中の囚人たりしや明白なりと云へりグールドがフヰスクと組みて不正の手段を用ひオルバニー府の州會と紐育府の裁判所とを同時に支配し又は千八百六十九年グールドが己れの仲實をして頻りに株を買はしめながら己れは人知れず之を賣り終に友人を欺きて死地に陷れたる邪智の働き陰險なるは實に人をして之を憎むみと蛇蝎も啻ならず思はしめたり左れば或る闘ひにグールドが投機の力の爲めに損失を被りたる左る男が町にグールドの

帶首つかんで之を宙に釣し

傍なる家の横の下なる物置に投込みしみとありグールドが身體の强さは其心の强さに及ばず左れば其後は人類を蟲蝶蛆同然に思ふグールドも深く用心したりと雖も蓋しゴエーグールドは病身にて腦の力ど思ふ所存を斷行する力とを除きてはウイ壯健なりしみとなければなり左れども彼れが能く

此病軀の驅使を隱して

射利の戰場に雄飛したる氣壯は三年喪を秘して敵を瞞着したりと云ひけん武田信玄に勝りたりとも劣りはすまじき奸雄の風あるなりグールドが臨終の前、二年の間に事を己れが關係したりし數多き鐵道の見分に托して或は西、或は南ど長き旅路に月日を過ごしたる内實の主意は國を求めて養生せんとの計策なりしなり蓋しその謀は此度びのグールドが病氣にも主醫となりし醫手マンの助言に起因せしや疑ふ可くも非ず左ればグールドが至る所、醫師は必ず之に隨行し居れり初對面の人が彼を見すグールドの親書なりと思ひしは度々のみとなり過ぎし頃、醫手マンが西部鐵道の長に任ぜられて天下の耳目を驚かしたるみどありしも此聞を以てなり畢竟グールドが第一の目的は或る丈け命を長くして或る丈け活潑の働きに堪へる間を久しからしめんとするに在りて第二は己れの現在の體の有樣を發表に知らしめざらんとするに在りしなりグールドは此事に就き旨くも公衆を欺き終せたり左れば彼の御附の醫師が職掌は患者が日々の動作を制定し又病氣の重くなりし頃は每時酬同樣の薬劑を下し患者をして動く事為に當り又は友人の間に談笑して然も己れの容態を時會られざる樣せしひるに在り（つゞく）

○大坂水道敷設工事　大坂市の水道敷設は昨二十五年九月に起工し最早六箇月の日子を重ねたれども非常の大工事ど云ひ殊に淀川筋郡邊村（櫻ノ宮の上流に在り）の水源池より大坂城内に設置する貯水池迄送水のみとは此事業中骨髓ども云ふ可き難工事なりされば着手以來日夜の工事は一日も怠ることなく唯取て代るの一偏にみそ在れば何事に限らず些少にても時の政府の瑕瑾を見出して之を非難するの口實を造り他を妨げて自から利せんとする其一方に於て政府の人は又反對黨の爲めに自家の落度を見出され爲めに幾分か名聲信用を害せられて地位を危くするの掛念なきに非されば決して油斷す可らず其良心の如何は扨置き現に角に他の攻擊を避けんとして自から明にし雙方互に自家一身の私利を目的として相爭ふ其間に自から政府部内の改良も行はれて結局國民一般の利益たる其趣は恰も商店の番頭二人が互に相爭ひ相嫉んで他の失行を見出さんみとを勉るが爲めに金庫の錢は却て安全なるものに異ならず或は立憲國の政府をして清淨潔白ならしむるものは在野黨の嫉妬心なりと云ふも過言に非ざる可し現に我國にても議會開設以來攻擊の甚だしきは爲めに政府は年々歲々次第に會計の法を慎み復た前年の濫費濫用を見ず官途全體に其面目を改めたるが如き明白なる事實にして政客嫉妬の功德も亦大なりと云ふ可し

又一歩を進め當局者の政略の爲めに謀りても外に政敵あるは内の結合を固くするのみならず我國の如き情實政府に於ては民論の攻擊を利用して都内の整理を斷行するの餘柄を得べし例へば現政府の内に蟠まる年來の弊事は當局者に於ても之を知りながら之を除くの手段に窮したるみとなれども立憲の體面の爲めに民論に從はざる可らずと云へば其立言に多少の重きを置かざるを得ず即ち過般伊藤首相が議會に對して來期の開會までには必ず整理の事を行ふ可しと約束したるも其心算は必ず民論を利用して平生の素志を達せんとするの政略なる可し其政略の果して今日に適す可きや否やは別問題として兎に角に在野政黨の議論は國事を破壞するものに非ず却て間接に之を理するの媒介たるを知る可し民論惜む可らず愛す可きなり

雜報

○射利の親玉（二十二日の續き）　前既に陳べたるが如くゲーグールドは僅に十四五歲にして主人を出し振き奇利を獲んとせし程の一種の人物なれば渾身唯是れ餌を得んとするのみにして官と人情に頓着する邪のみとはなしグールドは曾て牧者の投機を思立ち左る農家に行きて一疋の牝牛を買はんとせしが農夫の妻は痛く牛を愛し日本ならば假令ば女房くして牛賣り損ふとの喩りを被るとも牛は放しはせじと決心せしもの

にてもあらんか假令ひ善生とは云へ年頃日頃手塩付けて我愛を事ひ來る者を今更、人手に賣渡さんは心に忍びずと延に承引く氣色さへ見えざりしとグールドは如何云ひくるめけん終に農夫をして財を貪るの心を起さしめ首尾よく牝牛は捕上げたり扨もグールドは之を我家に牽歸りて此度我爲めには蓋張の辨を個したる實物

ィデ乳しぼりて與れん造莫れ苟めにも女が放さじものと思ひし物を引放し來りたるは要なきみとをしてけりと流石、鬼を欺くグールドも聊か心に安からぬ折柄牝牛は後足もてゴエーが背中をシタヽカに蹴り乳しぼりの桶は飛で宙に上たり商賣に抜目なきは亞米利加人の特質なれども牛が中にてゴエーグールドは蓋し其巨魁なる可し亞米利加に鐵道の事業起てよりグールドの如き人は少からず例ばヂーン リチモンド、ダニエルズルー及びコルネリアス ヴアンダビルトの如し然れども彼等は終にグールドに及ばざるなり又グールドの事を爲すや其所業は固より高等なる總義もて論ず可きに非ず彼れが

エリー鐵道を押領

せんとて壅為せし手段の如きは若し此手段をして他人の計策たらしめんには其人は既に獄中の囚人たりしや明白なりと云へりグールドがフヰスクと組みて不正の手段を用ひオルバニー府の州會と紐育府の裁判所とを同時に支配し又は千八百六十九年グールドが己れの仲實をして頻りに株を買はしめながら己れは人知れず之を賣り終に友人を欺きて死地に陷れたる邪智の働き陰險なるは實に人をして之を憎むみと蛇蝎も啻ならず思はしめたり左れば或る闘ひにグールドが投機の力の爲めに損失を被りたる左る男が町にグールドの

帶首つかんで之を宙に釣し

傍なる家の横の下なる物置に投込みしみとありグールドが身體の强さは其心の强さに及ばず左れば其後は人類を蟲蝶蛆同然に思ふグールドも深く用心したりと雖ども蓋しゴエーグールドは病身にて腦の力ど思ふ所存を斷行する力とを除きてはウイ壯健なりしみどなければなり左れども彼れが能く

此病軀の驅使を隱して

射利の戰場に雄飛したる氣壯は三年喪を秘して敵を瞞着したりと云ひけん武田信玄に勝りたりとも劣りはすまじき奸雄の風あるなりグールドが臨終の前、二年の間に事を己れが關係したりし數多き鐵道の見分に托して或は西、或は南ど長き旅路に月日を過ごしたる内實の主意は國を求めて養生せんとの計策なりしなり蓋しその謀は此度びのグールドが病氣にも主醫となりし醫手マンの助言に起因せしや疑ふ可くも非ず左ればグールドが至る所、醫師は必ず之に隨行し居れり初對面の人が彼を見すグールドの親書なりと思ひしは度々のみとなり過ぎし頃、醫手マンが西部鐵道の長に任ぜられて天下の耳目を驚かしたるみどありしも此聞を以てなり畢竟グールドが第一の目的は或る丈け命を長くして或る丈け活潑の働きに堪へる間を久しからしめんとするに在りて第二は己れの現在の體の有樣を發表に知らしめざらんとするに在りしなりグールドは此事に就き旨くも公衆を欺き終せたり左れば彼の御附の醫師が職掌は患者が日々の動作を制定し又病氣の重くなりし頃は每時酬同樣の薬劑を下し患者をして動く事為に當り又は友人の間に談笑して然も己れの容態を時會られざる樣せしひるに在り（つゞく）

○大坂水道敷設工事　大坂市の水道敷設は昨二十五年九月に起工し最早六箇月の日子を重ねたれども非常の大工事ど云ひ殊に淀川筋郡邊村（櫻ノ宮の上流に在り）の水源池より大坂城内に設置する貯水池迄送水のみとは此事業中骨髓ども云ふ可き難工事なりされば着手以來日夜の工事は一日も怠ることなく唯取て代るの一偏にみそ在れば何事に限らず些少にても時の政府の瑕瑾を見出して之を非難するの口實を造り他を妨げて自から利せんとする其一方に於て政府の人は又反對黨の爲めに自家の落度を見出され爲めに幾分か名聲信用を害せられて地位を危くするの掛念なきに非されば決して油斷す可らず其良心の如何は扨置き現に角に他の攻擊を避けんとして自から明にし雙方互に自家一身の私利を目的として相爭ふ其間に自から政府部内の改良も行はれて結局國民一般の利益たる其趣は恰も商店の番頭二人が互に相爭ひ相嫉んで他の失行を見出さんみとを勉るが爲めに金庫の錢は却て安全なるものに異ならず或は立憲國の政府をして清淨潔白ならしむるものは在野黨の嫉妬心なりと云ふも過言に非ざる可し現に我國にても議會開設以來攻擊の甚だしきは爲めに政府は年々歲々次第に會計の法を慎み復た前年の濫費濫用を見ず官途全體に其面目を改めたるが如き明白なる事實にして政客嫉妬の功德も亦大なりと云ふ可し

又一歩を進め當局者の政略の爲めに謀りても外に政敵あるは内の結合を固くするのみならず我國の如き情實政府に於ては民論の攻擊を利用して都内の整理を斷行するの餘柄を得べし例へば現政府の内に蟠まる年來の弊事は當局者に於ても之を知りながら之を除くの手段に窮したるみとなれども立憲の體面の爲めに民論に從はざる可らずと云へば其立言に多少の重きを置かざるを得ず即ち過般伊藤首相が議會に對して來期の開會までには必ず整理の事を行ふ可しと約束したるも其心算は必ず民論を利用して平生の素志を達せんとするの政略なる可し其政略の果して今日に適す可きや否やは別問題として兎に角に在野政黨の議論は國事を破壞するものに非ず却て間接に之を理するの媒介たるを知る可し民論惜む可らず愛す可きなり